

平成28年5月17日

熊本市長 大西一史 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一

代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880

人命・財産を危険にさらす立野ダム建設の即時中止 を国土交通省に求める要請書

今回の熊本地震で、阿蘇では大動脈である国道57号と阿蘇大橋が大規模な土砂崩れで崩落しました。国土交通省は、そのすぐ下流の立野峡谷で、高さ90mもの立野ダムの本体工事に着手しようとしています。

今回の地震で立野峡谷では他にも多くの土砂崩れが起こり、立野ダム本体予定地も両岸が大きく崩壊し、工事用道路や現場事務所、工事車両や各種工事用機材なども崩落した土砂に埋まりました。崩壊した土砂でせき止められた白川の流れの一部は、工事用の仮排水路トンネルの中を流れています。

もし、今回の地震が昼間に起きていたら、工事に従事していた多くの人命が失われ、負傷者が出ていたのは明らかです。また立野ダム完成後にこの地震が起こったとしたら、ダム本体の両岸の地盤が崩れていたわけであり、ダム上流は多量の土砂や流木で埋めつくされ、ダムの施設が損壊していた恐れもあります。

阿蘇大橋を崩落させた山腹の大崩壊の土砂は、黒川に流入しています。イタリアのバイオンタダムの大事故では、ダム貯水池が大雨で満杯状態であったところに、ダム湖周辺の山腹が崩壊し、その波紋が「津波」となってダム堤体を越え、下流の人口密集地を襲いました。立野ダムの場合も、大雨の時に流木等でダムの穴（幅5m×高さ5m）が塞がり（塞がらなくとも）満水に近い状態の際に、今回と同様の大崩壊が発生すれば、ダム堤体両脇の崩壊と相まって津波が堤体を越流し、一気に熊本市等の下流を襲う可能性は十分考えられます。このケースは地震の際は無論ですが、今回の地震で地殻や地盤が変化した後ですので、大雨だけの場合にも十分考えられることではないでしょうか。

そもそも、阿蘇外輪山が立野で切れた理由は、研究者の指摘では断層のはたらきで外輪山が落ち込んだからとされています。その後、中央火口丘からの溶岩で埋もれては、浸食のはたらきで削られることを繰り返して、立野峡谷は形成されました。今回の地震で活動した布田川断層帯は、阿蘇カルデラの中まで延びていたことも報道されています。そのような地盤が安定していない火山地帯は、巨大なダム建設の立地条件としては最悪だと思われます。詳細は、添付資料「熊本地震直後の立野ダム予定地周辺現地調査報告書（速報）」をお読みください。

国土交通省は、これまで「立野ダム予定地の岩盤は十分な強度がある」「立野ダム建設を行う上で特に考慮する活断層は存在しない」「地すべりは起こらない」等と主張してきたのですが、今回の地震でそのすべてが否定されたこととなります。立野ダム建設事業は、工事に従事する方々の生命を脅かすとともに、流域住民の生命・財産を脅かすことが十分に考えられます。白川流域の治水対策は、立野ダムではなく河川改修を進めるべきです。下記4点について市長が先頭に立ち、国土交通省に求められることを要請します。

記

1. 立野ダムは立地条件が最悪であるので、白川流域住民の生命・財産を守るために、国土交通省にダム建設中止を求めること。
2. 今後の立野ダム事業予算の執行を直ちに停止し、国道57号や阿蘇大橋、俵山トンネルの復旧をはじめ、震災復興に充てることを国土交通省に求めること。
3. 白川流域の治水対策は立野ダムを建設するのではなく、河川改修などダムにたよらない治水対策を進めることを国土交通省に求めること。
4. 「白川改修・立野ダム建設促進期成会」の名称を「白川改修促進期成会」と変更し、期成会の事業の内容を見直すこと。
以上